

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	トレーナー理論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	トレーナー理論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	4	64
使用教材	JATIトレーニング指導者テキスト【理論編】改訂版 JATIトレーニング指導者テキスト【実践編】改訂版		出版社	大修館書店	

科目の基礎情報②

授業のねらい	B i g 3（ベンチプレス、バックスクワット、デッドリフト）及び、基礎的な筋力トレーニングエクササイズのテクニックを身につける。J A T I 認定トレーニング指導者（J A T I－A T I）の取得に向けた知識をピックアップして学ぶ。		
到達目標	トレーニング指導者の役割、筋力トレーニングプログラム作成における基礎知識を学び、原理原則に応じた筋力トレーニングのプログラム作成をできる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	J A T I 認定トレーニング指導者（J A T I－A T I）		
関連科目	トレーナー理論Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	瀧澤 一騎	実務経験	○
実務内容	（一社）身体開発研究機構代表理事、北海道大学陸上競技部監督、大倉山NTC（スキージャンプ）トレーナーなどを歴任、複数の大学等で非常勤講師を務める。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実践編1章トレーニング指導者論 1節トレーニング指導者の役割 2節コミュニケーション	・トレーニング指導者とは ・国内のトレーニング指導者に対するニーズ ・トレーニング指導者の役割と業務 ・コミュニケーションの基礎
2	実践編1章トレーニング指導者論 1節トレーニング指導者の役割 2節コミュニケーション	・競技スポーツ分野における状況に応じた活動 ・トレーニング指導者の資質 ・トレーニング指導者が身につけるべき能力 ・トレーニング指導者の行動と倫理 ・コミュニケーション実践
3	実践編2章各種トレーニング法の理論とプログラム 1節トレーニング計画の立案（総論）	・トレーニングとは ・トレーニングの原理と原則（超回復、フィットネス－疲労理論）
4	実践編2章各種トレーニング法の理論とプログラム 1節トレーニング計画の立案（総論）	・トレーニングの原理と原則（集中負荷、トレーニング効果の種類）・トレーニング計画の立案
5	実践編2章各種トレーニング法の理論とプログラム 1節トレーニング計画の立案（総論）	・ピリオダイゼーション

6	実践編 2 章各種トレーニング法の理論とプログラム 2 節筋力トレーニングのプログラム作成	・筋力トレーニングの効果・筋力トレーニングのプログラムの条件設定 1) プログラムを構成する要素 2) エクササイズの種類と選択 3) 負荷の手段とトレーニング器具
7	実践編 2 章各種トレーニング法の理論とプログラム 2 節筋力トレーニングのプログラム作成	・筋力トレーニングの効果・筋力トレーニングのプログラムの条件設定 4) エクササイズの種類 5) 負荷の設定 6) トレーニング目的に応じた条件設定
8	実践編 2 章各種トレーニング法の理論とプログラム 2 節筋力トレーニングのプログラム作成	・筋力トレーニングの効果・筋力トレーニングのプログラムの条件設定 7) セットの組み方 8) セットごとの重量や回数の設定 9) 特殊なトレーニングシステム
9	実践編 2 章各種トレーニング法の理論とプログラム 2 節筋力トレーニングのプログラム作成	・筋力トレーニングの効果・筋力トレーニングのプログラムの条件設定 1 0) 動作スピード 1 1) トレーニング頻度 1 2) プログラムの分割
10	実践編 2 章各種トレーニング法の理論とプログラム 2 節筋力トレーニングのプログラム作成	・筋力トレーニングの効果・筋力トレーニングのプログラムの条件設定 1 3) 長期プログラムの作成(期分け) 1 4) 専門的エクササイズの設定
11	実践編 3 章各種トレーニング法の実践 1 節筋力トレーニングの実践 【実技】	・ベンチプレス、バックスクワット ※テクニック習得および、1 0～1 5 RMでのトレーニング実践
12	実践編 3 章各種トレーニング法の実践 1 節筋力トレーニングの実践 【実技】	・デッドリフト、ベントオーバーロウ ※テクニック習得および、1 0～1 5 RMでのトレーニング実践
13	実践編 3 章各種トレーニング法の実践 1 節筋力トレーニングの実践 【実技】	・シーテッドバーベルショルダープレス、サイドレイズ ※テクニック習得および、1 0～1 5 RMでのトレーニング実践
14	実践編 3 章各種トレーニング法の実践 1 節筋力トレーニングの実践 【実技】	・フォワードランジ ※テクニック習得および、1 0～1 5 RMでのトレーニング実践
15	実践編 3 章各種トレーニング法の実践 1 節筋力トレーニングの実践 【実技】	・ベンチプレス、バックスクワット、デッドリフト、ベントオーバーロウ ※テクニック習得および、1 0～1 5 RMでのトレーニング実践
16	実践編 3 章各種トレーニング法の実践 1 節筋力トレーニングの実践 【実技】	・シーテッドバーベルショルダープレス、サイドレイズ、フォワードランジ ※テクニック習得および、1 0～1 5 RMでのトレーニング実践
17	実践編 2 章 各種トレーニング法の理論とプログラム 2 節 筋力トレーニングのプログラム作成 【実践】	・筋力トレーニングのプログラム作成実践 ※ここまで学んだ理論と実技を生かす
18	実践編 2 章 各種トレーニング法の理論とプログラム 2 節 筋力トレーニングのプログラム作成 【実践】	・筋力トレーニングのプログラム作成実践 ※ここまで学んだ理論と実技を生かす
19	理論編 3 章バイオメカニクス 1 節バイオメカニクスの基礎理論	・運動の記述 ・運動の分析 (キネティクス、キネマティクス、マグナス力)
20	理論編 3 章バイオメカニクス 1 節バイオメカニクスの基礎理論	・トルク、モーメントアーム長
21	理論編 3 章バイオメカニクス 2 節スポーツ動作及びトレーニング動作のバイオメカニクス	スポーツ動作 1) 歩動作 2) 走動作 3) 跳動作 4) 投動作
22	理論編 3 章バイオメカニクス 2 節スポーツ動作及びトレーニング動作のバイオメカニクス	スポーツ動作 5) 打動作 6) 蹴動作 7) 滑走動作 8) 泳動作

23	理論編 3 章 バイオメカニクス 2 節 スポーツ動作及びトレーニング動作のバイオメカニクス	スポーツ動作 1) 歩動作 2) 走動作 3) 跳動作 4) 投動作 5) 打動作 6) 蹴動作 7) 滑走動作 8) 泳動作
24	理論編 3 章 バイオメカニクス 2 節 スポーツ動作及びトレーニング動作のバイオメカニクス	トレーニング動作 1) ローイング動作 2) ペダリング動作
25	理論編 3 章 バイオメカニクス 2 節 スポーツ動作及びトレーニング動作のバイオメカニクス	トレーニング動作 3) 上肢の動作 4) 下肢の動作
26	理論編 5 章 運動と栄養 1 節 運動と栄養に関する基礎理論	・ 五大栄養素の役割 1) 糖質（炭水化物） 2) 脂質 3) たんぱく質 4) ビタミン 5) ミネラル
27	理論編 5 章 運動と栄養 1 節 運動と栄養に関する基礎理論	・ 五大栄養素の役割 1) 糖質（炭水化物） 2) 脂質 3) たんぱく質 4) ビタミン 5) ミネラル
28	理論編 5 章 運動と栄養 1 節 運動と栄養に関する基礎理論	・ 身体組成とエネルギー代謝 ・ スポーツ栄養マネジメント
29	理論編 5 章 運動と栄養 2 節 スポーツ選手の競技力向上と栄養	・ 種目特性の分類と食事、トレーニングスケジュールと食事、グリコーゲン補給と回復のための食事
30	理論編 5 章 運動と栄養 2 節 スポーツ選手の競技力向上と栄養	・ 水分補給、栄養、食事計画の立案、目的別の食事管理、栄養サポートと栄養教育の実践
31	理論編 5 章 運動と栄養 3 節 健康増進と栄養	・ 健康日本 2 1（第 2 次）における具体的な目標 ・ 日本人の食事摂取基準
32	理論編 5 章 運動と栄養 3 節 健康増進と栄養	・ 食事バランスガイド ・ 食事バランスガイドを活用した食事指導 ・ 食育について

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	解剖学Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	解剖学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	4	64
使用教材	解剖学 第2版			出版社	医歯薬出版株式会社
科目の基礎情報②					
授業のねらい	現代医学の基礎となる解剖学を学び、人体の構成に関する基礎知識を習得する。				
到達目標	人体の構造について説明できる。 解剖学の知識を身につけ鍼灸施術に結び付けることができる。 解剖学の知識を身につけ人体の構造を理解し安全に鍼灸施術ができる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	解剖学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	北林 亜由美			実務経験	○
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元		内容		
1	総論（骨格系）		骨の形状、骨の連結・関節の種類		
2	総論（筋系）		筋の付着、筋の形・筋の神経、筋の補助装置、筋の作用と運動		
3	脊柱		脊柱の構成・各部の椎骨・脊柱の湾曲		
4	胸郭		胸骨、肋骨、胸郭の全体像と運動		
5	上肢の骨格		上肢体の骨・自由上肢の骨・上肢の関節		
6	下肢の骨格		下肢帯の骨・自由下肢の骨・下肢の関節		
7	頭蓋骨		頭蓋骨の成り立ち・脳頭蓋をつくる骨		

8	頭蓋骨	顔面頭蓋をつくる骨、頭部の関節、顎関節
9	体幹の筋	胸筋・腹筋・会陰筋、背筋
10	体幹の運動	体幹の前屈、後屈・体幹の回旋、呼吸運動
11	体幹の局所解剖	胸部、腹部・会陰、背部
12	体幹の神経	体幹の神経
13	上肢の筋	上肢帯の筋・上腕の筋
14	上肢の筋	前腕の筋・手の筋
15	上肢の運動	肩関節、肘関節の運動
16	前期末試験の解答と解説	解答と解説
17	上肢の局所解剖	上肢の局所解剖
18	上肢の神経	上肢の神経
19	下肢の筋	下肢帯の筋・大腿の筋・下腿の筋・足の筋
20	下肢の運動	股関節、膝関節、足、足指の運動
21	下肢の局所解剖	殿部・大腿・膝窩・下腿の筋区画（コンパートメント）・足部
22	下肢の神経	下肢の神経
23	神経系	神経系の構成・中枢神経系
24	神経系	中枢神経系
25	神経系	中枢神経系・伝導路
26	神経系	伝導路・末梢神経系
27	頭頸部	頭部の筋・頸部の筋
28	頭頸部の体表および局所解剖	頭部・頸部
29	頭頸部の末梢神経	脳神経、皮神経、頸神経、自律神経
30	感覚器系	視覚期・平衡聴覚器
31	感覚器系	味覚器・嗅覚器

32	総括	解答と解説
----	----	-------

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	解剖学Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	解剖学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	4	64
使用教材	解剖学 第2版			出版社	医歯薬出版株式会社

科目の基礎情報②

授業のねらい	現代医学の基礎となる解剖学を学び、人体の構成に関する基礎知識を習得する。		
到達目標	人体の構造について説明できる。 解剖学の知識を身につけ鍼灸施術に結び付けることができる。 解剖学の知識を身につけ人体の構造を理解し安全に鍼灸施術ができる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目	解剖学Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	村田 清貴	実務経験	○
実務内容	自身の鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	人体の構成	細胞・組織・体表構造（皮膚）・人体の区分と方向
2	人体の構成	体表構造（皮膚）
3	人体の構成	人体の区分と方向
4	循環器系	血管系
5	循環器系	心臓
6	循環器系	動脈系・静脈系
7	循環器系	胎児循環・リンパ系

8	呼吸器系	鼻腔、副鼻腔・咽頭・喉頭
9	呼吸器系	咽頭・喉頭
10	呼吸器系	気管と気管支・肺
11	消化器系	消化管の基本構造
12	消化器系	口腔・咽頭
13	消化器系	食道・胃
14	消化器系	小腸・大腸
15	前期末試験前の統括	授業のまとめ
16	前期末試験の解答と解説	解答と解説
17	消化器系	肝臓・胆嚢
18	消化器系	膵臓・腹膜
19	泌尿器系	腎臓・尿路
20	生殖器系	男性生殖器
21	生殖器系	女性生殖器・受精と発生
22	内分泌系	下垂体・松果体
23	内分泌系	甲状腺・上皮小体
24	内分泌系	副腎・膵腺・性腺
25	体幹の脈管	動脈・静脈・リンパ
26	頭頸部の脈管	頭頸部の動脈・頭頸部の静脈・頭頸部のリンパ系
27	上肢の脈管、神経	上肢の動脈、静脈、リンパ、神経
28	下肢の脈管	下肢の動脈・下肢の静脈・リンパ
29	全身の体表触察	上肢帯、上肢部の筋肉、骨などの触察
30	全身の体表触察	下肢帯、下肢部の筋肉、骨などの触察。体幹部の触察
31	後期末試験前の統括	授業のまとめ

32	総括	解答と解説
----	----	-------

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	生理学Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	生理学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	8	128
使用教材	生理学 第3版			出版社	医歯薬出版株式会社
科目の基礎情報②					
授業のねらい	現代医学の基礎となる生理機能を学び、正常状態での生体の機能を習得する。				
到達目標	正常な人体の生理機能について説明できる				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師・きゅう師				
関連科目	生理学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	古川 茂			実務経験	○
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元		内容		
1	オリエンテーション、生理学の基礎		授業の流れ、到達目標について、生理機能の特徴、細胞の構造と機能		
2	生理学の基礎		物質代謝、体液の組成と働き、物質移動		
3	循環		血液の組成と働き、止血		
4	循環		線維素溶解・血液型		
5	循環		心臓血管系・心臓の構造と働き		
6	循環		血液循環		
7	代謝		食品・栄養素、代謝		

8	代謝	各栄養素の働きと代謝
9	体温	体温調節、体熱の産生と放散
10	体温	発汗とその調節、体温調節の障害
11	排泄	腎臓の働き
12	排泄	腎循環
13	内分泌系	ホルモンの特徴
14	内分泌系	ホルモンの種類とその働き
15	生殖	生殖、妊娠と出産
16	成長と老化	成長、老化
17	神経	ニューロンの構造と働き、神経線維の興奮伝導
18	神経	シナプス伝達、中枢神経系の分類と機能、反射
19	神経	脊髄、脳幹、小脳
20	神経	視床、視床下部、大脳
21	神経	脳脊髄液、末梢神経系、自律神経系
22	筋	骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み
23	筋	筋のエネルギー供給の仕組み、心筋と平滑筋
24	運動	骨格筋の神経支配、運動の調節
25	運動	錐体路系と錐体外路系
26	運動	発生と言語
27	感覚	感覚の分類と一般的性質、体性感覚、内臓感覚
28	感覚	痛覚、嗅覚、味覚、聴覚、平衡感覚、視覚
29	生体の防御機能	生体の防御機構・免疫反応・生体の適応、恒常性維持
30	身体活動の協調	バイオリズム
31	期末試験前の統括	授業のまとめ
32	総括	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療概論		
必修選択	必修	(学則表記)	医療概論		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	1	16
使用教材	医療概論			出版社	医歯薬出版会社

科目の基礎情報②

授業のねらい	現代の医学、医療の現状や問題点などについて幅広く学習し、医療人に必要な知識の習得や、倫理観の形成を目的とする。				
到達目標	現代の医学、医療の現状や問題点などについて幅広く学習し、医療人に必要な知識の習得や、倫理観の形成している。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	加藤 竜司			実務経験	○
実務内容	自身の治療院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	医学史序説、医学史の意義と特質	医療概論、医学史の方法の可能性
2	西洋の医学と医療の歴史	古代の医学、中世の医学
3	西洋の医学と医療の歴史	ルネサンスの医学、17世紀の医学-近代医学の萌芽
4	西洋の医学と医療の歴史	18世紀の医学、19世紀以降の医学
5	東洋の医学と医療の歴史	古代インドの医学
6	東洋の医学と医療の歴史	中国の医学
7	日本の医学と医療の歴史	古代以前、古代の医学

8	日本の医学と医療の歴史	中世の医学、近世の医学
9	日本の医学と医療の歴史	近代の医学
10	現代医療の課題	西欧近代医学
11	現代医療の課題	東洋医学
12	現代の医療制度	医療従事者と医療施設、医療と医療経済
13	現代の医療制度	医療保険のしくみ
14	現代の医療制度	公的医療負担、介護サービス行政
15	医療倫理	医療倫理、施術者としての倫理
16	試験後まとめ	前期末試験解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	関係法規		
必修選択	必修	(学則表記)	関係法規		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	1	16
使用教材	関係法規			出版社	医歯薬出版株式会社

科目の基礎情報②

授業のねらい	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律を学び、はり師、きゅう師の免許や業務に関する知識を習得する。また、他の医療従事者との連携を想定し、医療や福祉の関係法規も併せて学習する。		
到達目標	患者の人権に根ざした医療を行うため、業務に必要な法律を理解し順守できるようになる。 インフォームドコンセントを実践できる。 その他の医療従事者の業務を知り、医療チームの一員として活躍できる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	澤田 侑里	実務経験	○
実務内容	往診専門の治療院、学校附属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	法とは何か	法の意義、法の体系
2	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	法制定の目的
3	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	免許について
4	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	試験について
5	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	業務について
6	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	学校、要請施設、指定試験（登録）機関・罰則
7	あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律	罰則

8	関係法規	医事法規と医療制度
9	関係法規	医療法
10	関係法規	医師法、その他の医療従事者に関する法律
11	関係法規	薬事法規
12	関係法規	衛生関係法規
13	関係法規	社会福祉関係法規
14	関係法規	社会保険関係法規、その他の関係法規
15	総括	授業のまとめ
16	後期末試験の解答と解説	解答と解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	東洋医学概論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	東洋医学概論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	6	96
使用教材	新版 東洋医学概論			出版社	医歯薬出版株式会社

科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼灸治療の起源である東洋医学の基礎知識を理解する。		
到達目標	東洋医学の基礎的な説明ができるようになる。		
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	はり師、きゅう師		
関連科目	東洋医学概論Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	古川 茂	実務経験	○
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	東洋医学の基礎理論	東洋医学の起源と発展
2	東洋医学の基礎理論	東洋医学の起源と発展
3	東洋医学の基礎理論	陰陽五行論
4	東洋医学の基礎理論	陰陽五行論
5	東洋医学の基礎理論	陰陽五行論
6	東洋医学の人体の考え方	気血津液
7	東洋医学の人体の考え方	気血津液

8	東洋医学の人体の考え方	気血津液
9	東洋医学の人体の考え方	五臓六腑（臓象）
10	東洋医学の人体の考え方	五臓六腑（臓象）
11	東洋医学の人体の考え方	五臓六腑（臓象）
12	東洋医学の人体の考え方	臓腑経絡論
13	東洋医学の人体の考え方	臓腑経絡論
14	東洋医学の疾病観	病因論
15	東洋医学の疾病観	病因論
16	東洋医学の疾病観	病因論、前期内容のまとめ
17	東洋医学の疾病観	病理と病証
18	東洋医学の疾病観	病理と病証
19	東洋医学の疾病観	病理と病証
20	診断論	四診
21	診断論	四診
22	診断論	四診
23	診断論	証の立て方
24	診断論	証の立て方
25	診断論	証の立て方
26	診断論	証の立て方
27	治療論	証の立て方
28	治療論	総論および原則
29	治療論	治療法
30	治療論	治療法
31	治療論	治療法

32	治療論	他の東洋医学療法、後期のまとめ
----	-----	-----------------

シラバス				
科目の基礎情報①				
授業形態	講義	科目名	経絡経穴概論Ⅰ	
必修選択	必修	(学則表記)	経絡経穴概論Ⅰ	
開講			単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	6 96
使用教材	新版 経絡経穴概論		出版社	医道の日本社
科目の基礎情報②				
授業のねらい	東洋医学の基礎知識である経絡と経穴の知識を学び、東洋医学に基づく治療の基礎を習得する。			
到達目標	経穴の名称や特徴、取穴部位などの説明ができるようになる。			
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。			
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者			
関連資格	はり師、きゅう師			
関連科目	経絡経穴概論Ⅱ			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。			
担当教員	麻生 寿樹		実務経験	○
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。			
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります				
各回の展開				
回数	単元	内容		
1	経絡・経穴の基礎	経絡・経穴の誕生、臓腑の概要		
2	経絡・経穴の基礎	臓腑の概要、経絡の概要		
3	経絡・経穴の基礎	経穴の概要		
4	経絡・経穴の基礎	経穴の概要		
5	経脈・経穴	督脈		
6	経脈・経穴	督脈		
7	経脈・経穴	任脈		

8	経脈・経穴	任脈
9	経脈・経穴	手の太陰肺経
10	経脈・経穴	手の太陰肺経、手の陽明大腸経
11	経脈・経穴	手の陽明大腸経
12	経脈・経穴	手の陽明大腸経、足の陽明胃経
13	経脈・経穴	足の陽明胃経
14	経脈・経穴	足の陽明胃経
15	経脈・経穴	足の陽明胃経、足の太陰脾経
16	経脈・経穴	足の太陰脾経、前期のまとめ
17	経脈・経穴	手の少陰心経
18	経脈・経穴	手の少陰心経、手の太陽小腸経
19	経脈・経穴	手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経
20	経脈・経穴	足の太陽膀胱経
21	経脈・経穴	足の太陽膀胱経
22	診断論	足の太陽膀胱経
23	診断論	足の太陽膀胱経、足の少陰腎経
24	診断論	足の少陰腎経
25	診断論	足の少陰腎経、手の厥陰心包経
26	診断論	手の厥陰心包経
27	治療論	手の少陽三焦経
28	治療論	手の少陽三焦経
29	治療論	足の少陽胆経
30	治療論	足の少陽胆経
31	治療論	足の少陽胆経、足の厥陰肝経

32	治療論	足の厥陰肝経、後期のまとめ
----	-----	---------------

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	はりきゅう理論		
必修選択	必修	(学則表記)	はりきゅう理論		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	2	32
使用教材	はりきゅう理論			出版社	医道の日本社

科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼や灸に関する治療用具としての基礎知識を学ぶ。 鍼灸の治効理論や身体に及ぼす影響を理解し、鍼灸施術の安全性に関する知識を高める。				
到達目標	鍼や灸に関する治療用具についての基礎知識を説明することができる。 鍼灸の治効理論、生体への影響について説明することができる。 鍼灸施術の安全性に関する知識に関して説明できる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	基礎はりきゅう実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	古川 茂			実務経験	○
実務内容	学校付属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	概論	鍼灸治療の意義、鍼灸治療の特徴
2	鍼の基礎知識	鍼と鍼管、古代九鍼
3	刺鍼の方式と術式	刺鍼の方式、刺鍼の術式
4	特殊鍼法	小児鍼、皮内鍼、円皮鍼灸頭鍼、低周波鍼通電療法
5	灸の基礎知識	灸の材料、線香
6	灸術の種類	有痕灸、無痕灸
7	鍼灸の臨床応用	刺激量、感受性鍼灸療法の適応症鍼灸療法の禁忌

8	リスク管理	リスク管理の基本鍼療法の過誤と副作用灸療法の過誤と副作用
9	リスク管理	感染症対策、痛み感覚の受容と伝導
10	鍼灸治効の基礎	温度感覚の受容と伝導、触圧感覚の受容と伝達
11	鍼灸治効の基礎	筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝達、鍼灸刺激と反射
12	鍼灸治効の基礎	鍼鎮痛、刺激と反応
13	鍼灸療法的一般治効理論	自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響、生体防御機能に及ぼす鍼灸刺激の影響、鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用
14	関連学説	サイバネティックスの作用ホメオスターシス,汎適応症候群の学説（ストレス学説）
15	関連学説	過剰刺激症候群の学説（レイリー現象）圧発汗反射の学説
16	総括	授業のまとめ、試験振り返り

シラバス				
科目の基礎情報①				
授業形態	講義	科目名	生体観察	
必修選択	必修	(学則表記)	生体観察	
開講			単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	2 32
使用教材	ボディーナビゲーション		出版社	医道の日本
科目の基礎情報②				
授業のねらい	人体の構造を知る。 骨の構造を理解する。			
到達目標	骨の構造を説明できる。 筋肉の起始、停止、作用を説明できる。。 経穴取穴や鍼灸施術を行う上での指標が確認できる。			
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。			
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者			
関連資格	はり師、きゅう師			
関連科目				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。			
担当教員	北林 亜由美	実務経験		○
実務内容	学校附属鍼灸院にて臨床に従事。			
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります				
各回の展開				
回数	単元	内容		
1	オリエンテーション 触察方法の確認	授業の流れ、到達目標について 触察で使用する部位、圧の入れ方など		
2	下腿と足を構成する骨の構造の確認と触察	下腿、足を構成する骨、足関節の触察		
3	下腿と足を構成する筋の構造の確認と触察	下腿、足に存在する筋・腱などの触察		
4	大腿部・股関節・臀部を構成する骨の構造の確認と触察	大腿骨、骨盤を構成する骨、股関節の触察		
5	大腿部・股関節・臀部を構成する筋の構造の確認と触察	大腿部、臀部に存在する筋・腱などの触察		
6	上腕・肩甲帯を構成する骨の構造の確認と触察	上腕骨、肩甲骨、肩関節などの触察		
7	上腕・肩甲帯を構成する筋の構造の確認と触察	上腕、肩甲帯に存在する筋などの触察		

8	前腕・手を構成する骨の構造の確認と触察	前腕、手を構成する骨などの触察
9	前腕・手を構成する筋の構造の確認と触察	前腕、手に存在する筋などの触察
10	体幹背部を構成する骨の構造の確認と触察	脊柱を構成する骨などの触察
11	体幹背部を構成する筋の構造の確認と触察	体幹背部に存在する筋などの縮刷
12	体幹腹部を構成する骨の構造の確認と触察	体幹前面に存在する骨などの触察
13	体幹腹部を構成する筋の構造の確認と触察	体幹前面に存在する筋などの触察
14	頭頸部を構成する骨の構造の確認と触察	頭頸部を構成する骨などの触察
15	頭頸部を構成する筋の構造の確認と触察	頭頸部を構成する筋などの触察
16	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	基礎はりきゅう実技		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎はりきゅう実技		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	5	160
使用教材	はりきゅう実技（基礎編）			出版社	医道の日本社

科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼灸の基礎動作を反復練習し、基本の技術を修得する。 消毒法を学び、衛生に関する知識と消毒の手順を修得する。				
到達目標	正確な取穴ができる。鍼の角度や深度を目的に沿って調節できる。艾の燃焼度合いや硬さ目的に沿って調節できる。手指や施術部位の適切な消毒ができる。				
評価基準	テスト、レポート、授業態度などにより総合的に勘案した結果を基に判定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	応用はりきゅう実技、臨床はりきゅう実技				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	西川 隆一、入口 竜士			実務経験	○
実務内容	西川隆一：自身の鍼灸院と学校附属鍼灸院にて臨床に従事。 入口竜士：学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	消毒法、鍼の基本実技、灸の基本実技、自分の身体への施術	オリエンテーション、鍼の説明、灸の説明
2	消毒法、鍼の基本実技、灸の基本実技、自分の身体への施術	刺鍼の基本手技の説明、押手・切皮・両手挿管の練習 伊吹艾の製造方法、米粒大～半米粒大の練習
3	消毒法、鍼の基本実技、灸の基本実技、自分の身体への施術	揉捻法の説明・練習、刺鍼の流れの説明・練習 片手挿管の説明・練習、鍼の長さ、太さの説明、片手挿管の練習
4	消毒法、鍼の基本実技、灸の基本実技、自分の身体への施術	知熱灸・手技の説明、線香に着火した状態で、米粒大、半米粒大の練習、衛生操作の説明、実践 知熱灸の説明を行い、5分灸・7分灸の練習、直刺・斜刺・横刺の説明、直刺・斜刺・横刺の練習
5	消毒法、鍼の基本実技、灸の基本実技、自分の身体への施術	線香に着火した状態で米粒大・半米粒大の7分灸の練習、実技室にて自身の踵に7分灸 片手挿管の練習、直刺・斜刺・横刺の練習、自身に刺鍼、足三里に直刺・豊隆に斜刺
6	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	米粒大・半米粒大（燃やし切り）、7分灸の練習（施灸板） 自身の大都・水泉・三陰交の取穴、7分灸を行う。片手挿管、直刺、斜刺、横刺の練習、自身への刺鍼
7	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	半米粒大・7分灸の練習（施灸板）、自身に7分重ね灸 相手の失眠に7分重ね灸、片手挿管の練習、自身に刺鍼、相手に刺鍼
8	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、大椎、身柱に7分で重ね 片手挿管の練習、自身へ刺鍼…直刺、斜刺、横刺、相手に刺鍼…直刺

9	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、陶道・神道に7分重ね灸 片手挿管の練習、自身へ刺鍼…直刺、斜刺、横刺、相手に刺鍼…直刺
10	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、霊台・至陽・筋縮に7分重ね灸 片手挿管の練習、相手に刺鍼…直刺（上腕・建里・尺沢）
11	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、懸枢・脊中・中枢に7分重ね灸 片手挿管の練習、相手に刺鍼…直刺（陰交・関元）、斜刺（天府・侠白）
12	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、命門・腰陽関に7分重ね灸 片手挿管の練習、相手に刺鍼…直刺（太淵・孔最）、斜刺（雲門・肩髃）
13	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、経渠・列欠・魚際に7分重ね灸 中間試験練習
14	試験練習	中間試験練習、中間試験の結果をもとにフィードバック
15	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	中間試験の結果をもとにフィードバック、片手挿管の練習 相手に刺鍼…直刺（中府・魚際・陽溪）、横刺（列欠）
16	試験練習	前期末試験練習
17	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	前期末試験の結果をもとにフィードバック、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、二間・三間・天枢・犢鼻 に7分重ね灸
18	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術の練習、相手に刺鍼…直刺（手三里・肘膠・梁門）、横刺（偏歷）施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、関門・太乙・下廉・上廉・足三里に7分重ね灸
19	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術の練習、相手に刺鍼…直刺（手五里・臂臑・巨骨・承満）、横刺（温溜）施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、陰市・大都・太白・神門に7分重ね灸
20	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、旋撚術の練習、相手に刺鍼…直刺（上巨虚・条口・下巨虚）、横刺（大横・血海）施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、三陰交・通里・陰郄・前谷・足通谷に7分重ね灸
21	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術の練習、相手に刺鍼…直刺（豊隆・解溪・衝陽・陰陵泉）、横刺（腹哀）施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、公孫・商丘・漏谷・地機・靈道に7分重ね灸
22	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術・間歇術の練習、相手に刺鍼…直刺（少海・小海・天宗・臑兪・天柱・大杼）天宗のみ間歇術、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、養老・支正・秉風・風門・肺兪に7分重ね灸
23	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術の練習、相手に刺鍼…直刺（太溪・委中、合陽、承山、崑崙）施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、厥陰兪、心兪、附分、魄戶、膏肓、神堂に7分重ね灸
24	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術・間歇術の練習、相手に刺鍼…直刺（曲垣・肩中兪・肩外兪、天宗）斜刺（風門）施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、僕参、至陰、大鍾、水泉、照海、大陵に7分重ね灸
25	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術・刺鍼転向法の練習、相手に刺鍼…直刺（承筋・飛揚）内下方斜刺（督兪、膈兪、肝兪）、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、然谷、復溜、交信、間使、内関に7分重ね灸
26	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術・刺鍼転向法の練習、相手に刺鍼…直刺（浮郄・委陽）、内下方斜刺（胆兪・脾兪・胃兪）、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、中渚・陽池・外関・支溝・会宗に7分重ね灸
27	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、雀啄術・旋撚術・刺鍼転向法の練習、相手に刺鍼…直刺（腎兪・氣海兪・大腸兪・跗陽）、内下方斜刺（三焦兪）、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、7分重ね灸
28	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、相手に刺鍼…直刺（陰谷・築賓・金門・曲沢・郄門）、内下方斜刺（肺兪：反対側で取穴）、施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、取穴のみ…消灤 四瀆・天井・地五会・侠溪に7分重ね灸
29	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、屋漏術の練習、相手に刺鍼…直刺（肩髃・天髃・太衝）、内下方斜刺（膈兪・脾兪：反対側で取穴）施灸板に半米粒大の練習、失眠に7分重ね灸、中都、膝関、懸鐘、丘墟、足臨泣に7分重ね灸
30	鍼の基本実技、灸の基本実技 自分・相手の身体への施術	片手挿管の練習、屋漏術の練習、相手に刺鍼…直刺（曲泉・中封・陽陵泉・蠡溝）、内下方斜刺（腎兪・大腸兪：反対側で取穴）、施灸板に半米粒大の練習、失眠・膝陽関・陽交・外丘・光明・陽輔に7分重ね灸
31	練習	期末試験前練習日

32	総括	期末試験のフィードバック
----	----	--------------

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	臨床実習Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	臨床実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	鍼灸科 夜間部	1	45
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	鍼灸院で見学実習を行い、鍼灸師やスポーツトレーナーとしての心構えや実際の業務について学ぶ。				
到達目標	鍼灸師・スポーツの実際の業務について説明できる。				
評価基準	実習への参加姿勢や実習参加日数、提出レポート等を考慮して決定する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者				
関連資格	はり師、きゅう師				
関連科目	臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ				
備考	この科目は付属鍼灸院および外部実習先で対面形式にて実施する。				
担当教員	西川 隆一			実務経験	○
実務内容	自身の鍼灸院と学校附属鍼灸院にて臨床に従事。				